

LIBRARY



先日某高校の司書さんの話を聞く機会があったのですが、その学校のあまり本を読まない男子生徒が、読書を称して、「没落系アトラクション」と言ったとか。一方で同じ学校の日ごろ本を読んでいる高校生からは、読書は水脈のようなものという発言も。単なる娯楽に過ぎないか、そこに豊かな水脈を見つけられるかは、君次第？！

世界のはての少年 ジェラルディン・マコックラン 東京創元社

子ども9人と大人3人を乗せた船が、スコットランドのヒルタ島から、無人島へと出帆した。冬に備え、この島で大量に海鳥を捕獲するのだが、ヒルタの子どもたちにとってはそれは大人への通過儀礼でもあった。ところが1727年の夏、なぜか約束の3週間が過ぎても、迎えの船がやってこない！およそ9か月後、やっと船がやってきた。その間、いったいヒルタでは何があったのか、そして極限状態に置かれた12人は何をし、何を考えたのか。一人を除いて11人が帰還したという史実をもとに書かれた物語。～世界が終わっても、音楽と愛だけは生き残る～。



セント・キルダの子 ベス・ウォータース文・絵 岩波書店

上で紹介した物語の場所が、実はこのセント・キルダ島なのです。イギリス、スコットランドのはずれにあり、荒れる海にかこまれ、たくさんの海鳥があつまります。外の世界から遠くはなれて、お金も電気もなしに、きびしい自然のなかで生きるための工夫をこらす島の人々。その暮らしも、1930年を最後に失われてしまいました。今は世界遺産の島となっていますが、当時の暮らしを、実在した少年の目を通して伝える美しい絵本です。出版は2020年。小説より1年後ですね。



雲を紡ぐ 伊吹有喜著 文藝春秋 2020

ささいないじめから、学校に行けなくなってしまった高校生の美緒。厳しい母からも逃れるように、家を出て向かったのは、祖父絃治郎の暮らす盛岡だった。ホームスピンの工房を営む絃治郎は、美緒の亡き祖母とは離婚し、父とも疎遠だった。美緒は、初めて出会うホームスピンに心を奪われる。埼玉県のある学校司書が選ぶ今年のイチオシ本に選ばれたこの本、今のところ読んでくれた全員が◎！伊吹有喜さんには今後も注目したいです。



わたしの好きな季語 川上弘美著 NHK出版 2020

「妙な言葉のコレクション」が趣味だった著者は、大学生のころ、図書館で「歳時記」を発見して読みふけたそうです。気分はさながら、「宝箱を掘り出したトレジャーハンター」だったとか。後年、ひよんなことから俳句をつくるようになった著者は、ガラスケースのなかのアンティークのように眺めてきた季語を自分の俳句に使うことで、100年も200年も前に作られた繊細な細工の首飾りを自分の首にかけるような気持ちになったそうです。季語のとりことなっていく日々のエピソードをつづった俳句エッセイ集。



かか 宇佐見りん著 河出書房新社 2019

離婚がもとで少しずつ壊れていくかか(母)を愛する故に傷つく娘であるうーちゃんの物語です。脆い母、身勝手な父、家族というしがらみ、女であることの不自由さ、そういった諸々の重たい現実からの一時避難場所が、うーちゃんにとってのSNSだった。『押し、燃ゆ』で大注目の宇佐見りんさんのデビュー作。先輩作家村田沙耶香さんとの対談では、「母と娘」は今後も書き続けたい大きなテーマだと。三島由紀夫賞と文藝賞のW受賞。



私を月に連れてって 鈴木るりか著 小学館 2020

若干14歳でデビューした鈴木るりかさん、まだ高校2年生にして、これが4作目、しかも『さよなら、田中さん』『太陽はひとりぼっち』につながる作品です。「遠くへ行きたい」は中学2年生になった田中花実が主人公。なかよしの佐知子と花実は謎めいた少女と出会い、少女のためによかれと行動したはずが、予期せぬ展開となり、おもってもみない結果に。笑いと涙、そしていつだって生きることを肯定的にとらえる「るりかワールド」はさらにパワーアップ！3つのお話が入っています。



滅びの前のジャングリラ 凧良ゆら 中央公論新社 2020

「一ヶ月後、小惑星が衝突し、地球は滅びる」学校でいじめを受ける友樹、人を殺したヤクザの信士、恋人から逃げ出した静香。そして…。このプロットを聞いていた担当編集者が、ラストを読んで熱い感動に包まれたという。この本で「本屋大賞」ゲット！ともくろんでいたら、早々に前作『流浪の月』で大賞受賞。その受賞パーティがコロナ禍で流れ、世の中に閉塞感がただよぶなか、この本が読めてよかったと書店員さんからの絶賛の声。ということで、担当編集者さんはきっと今、連続大賞受賞を狙っているのかも。みなさんも是非一読を！



気候変動から世界を守る30の方法 FoE Japan 合同出版

73回生は、家庭科の授業で、FoE Japanの一員で、本校の卒業生(61回生)、高橋英恵さんのゲスト授業を受けました。その時に、気候変動は単に環境問題にとどまらず、人権・貧困・格差、性による不平等などの社会問題と密接につながっているという話を聞きましたよね。この本は、その具体的な事実と、そこから世界を守るための方法が記された本です。巻末にたくさんの参考文献がありました。そこで来年度は、目下年間を通して“気候変動”に関連した展示を考え中です。卒業生とのコラボ企画も浮上中。お楽しみに。



ひねもすのたり日記①～③ ちばてつや 小学館

漫画界の大御所、ちばてつやさんによる自伝風日記。各章4ページごとに短編で進んでいきます。最近のことや、幼き日のこと、戦争中のことなど、テーマは多岐にわたりますがどれも興味深いエピソードばかり。そしてちばさんのお人柄が！



2月～3月に入った本

今年は、電子図書館も使えるようにしましたが、まだ運営方法は模索中です。

379D	独学大全 =	読書猿	ダイヤモンド社	2020/09
451K	気候変動から世界をまもる 30 の方法	FoE Japan 編	合同出版	2021/01
451T	気温が1度上がると、どうなるの?	シュライパー 文	西村書店東京	2021/02
457A	化石ウオーキングガイド関東甲信越版	相場博明 編	丸善出版	2013/06
467N	遺伝子・DNA のすべて	夏緑 著	童心社	2020/01
548W	ひと目でわかるプログラミングのしくみとはたらき図鑑	渡邊昌宏	創元社	2021/01
589K	私の好きな文房具の秘密	菅未里	樫出版社	2019/04
596H	にっぽんのおかず	白央篤司	理論社	2016/10
611I	食料危機	井出留美	PHP 研究所	2021/01
611S	13 歳からの食と農	関根佳恵	かがわ出版	2020/11
726A	絵のある自伝	安野光雅	文藝春秋	2014/05
751K	もっと知りたいやきもの	柏木麻里	東京美術	2020/10
778A	浅田家	浅田政志	赤々舎	2008/07
779Y	寝苦しい夜の猫	山内健司	扶桑社	2020/12
817I	生きる力を身につける 14 歳からの読解力教室	犬塚美輪	笠間書院	2020/04
911K	わたしの好きな季語	川上弘美	NHK 出版	2020/11/20
911T	百人一首解剖図鑑	谷知子	イクスナレッジ	2020/12
913Hi	ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人	東野圭吾	光文社	2020/11
913Ka	オルタネート	加藤シゲアキ	新潮社	2020/11
913Ko	アメリカン・スクール	小島信夫	新潮社	2008/01
913Mi	華栄の丘	宮城谷昌光	文藝春秋	2016/06
913Na	滅びの前のシャングリラ	凧良ゆう	中央公論新社	2020/10
913O	白銀(しろがね)の墟 玄(くろ)の月	小野不由美	新潮社	2019/10
913T	ガラスのうさぎ	高木敏子 作	金の星社	2005/06
913U	推し、燃ゆ	宇佐見りん	河出書房新社	2020/09
913U	かか	宇佐見りん	河出書房新社	2019/11
914M	猫を棄てる	村上春樹	文藝春秋	2020/04
914M	村上さんのところ	村上春樹	新潮社	2018/05
916S	東京が燃えた日	早乙女勝元	岩波書店	1979/06
933M	世界のはての少年	マコックラン	東京創元社	2019/09
933R	ハリー・ポッターと賢者の石	J.K.ローリング 著	静山社	2018/11
933W	ニッケル・ボーイズ	ホワイトヘッド	早川書房	2020/11
933Z	ルーシー変奏曲	サラ・ザール	小学館	2014/02
934O	あなたと原爆	ジョージ・オーウェル	光文社	2019/08
936T	ナガサキの郵便配達	ピーター・タウンゼント	映画プロジェクト	2018/08
E I	字のないはがき	向田邦子 原作	小学館	2019/05
Eセ	セント・キルダの子	ウォーターズ	岩波書店	2020/09

コーナー企画 2021.3月



～歴代本屋大賞ノミネート作品～
毎年、この時期発表になるのが、本屋大賞ノミネート作品です。回を重ねるごとに、厚みも出てきて、歴代のノミネート作で世中の図書館の蔵書にあるものを並べてみました。旬の作品から、もう定番の作品になったものまで、いろいろあります。展示コーナーの前で足を止めて、友達に薦め合ってる姿

もよくみかけます。何か読もうかな…と思っている中学生には、ちょうどいいかもしれません。次は、本屋大賞に2回以上ノミネートされた作家さんの特集をしようかなと思っています。



73回生 国語(実は社会も!)

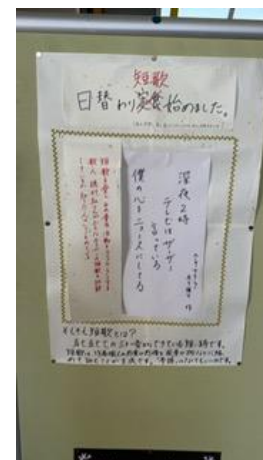
戦争関連の本を読もう!



渡邊先生から、かなり難しい課題です…とあったように、73回生は戦争に関する「本」を何かしら選んで春休み中に読み、4月末までに課題を提出することになりました。

戦争に関する本は、ざっと棚から抜いただけでも軽く160冊。でも内容は軽くないですね。それぞれ、自分の興味関心が持てそうな本を選んで借りていってくれました。21世紀、人と人が武器を使って貴重な命を失う争いを避ける知恵を、ぜひ十代の皆さんには本気で考えてほしいです。もちろん、本当に考えるべきは今の大人なんですけど…。

日替わり短歌はじめました!



3月から、図書館前に、こんな掲示があるのを知った人もいますかと思っています。

緊急事態宣言が延長になり、毎日午前で下校の日々では、なかなか図書館に足を運んで

られない3学期。せめて、何か活字を読んで欲しいなと考えた結果の試みです。

実は、毎日短歌を選んでくれているのは、附属世田谷小学校の前学校司書、吉岡裕子先生です。『短歌ください』『短歌の友人』など、たくさんの短歌に関する本を出している穂村弘さん。今も毎月一般の人が作った短歌を『ダ・ヴィンチ』誌上で選び、選評を書いています。そこで、穂村さんがとりあげた短歌の中から、これぞというものを選んでくれているわけです。

たった31文字なら一瞬で目に入り、しかもクスッと笑えたり、なるほどと思えたり。まずは目標50号を目指して、毎日取り組んでいます。